

協議会ニュース

No. **164**

2019. 9



Contents

02	生物(植物)分類・生態研修会	事務局	石原	則義
03	協議会交流の日(11/04)	名古屋支部	滝田	久憲
04	メリケントキンソウ ～確認から除去～	名古屋支部	近藤記巳子	
05	あいちの自然観察会(5/04)	名古屋支部	滝田	久憲
06	研修会(6/30)	東三河支部	星野	芳彦
07	稲武自然観察会(有松中)の報告	名古屋支部	西野	智子
08	私の活動紹介	知多支部	榊原	靖
09	新指導員紹介	事務局	石原	則義
09	理事会報告(②5/6)			
10	行事案内/事務局からのお知らせ/編集後記	事務局	石原	則義

今号の表紙

ツツハムシの仲間顔 山田 千宏 (名古屋支部)
生き物のアップの写真大募集中!

2019 年度 生物（植物）分類・生態研修会 ご案内

主催 愛知県自然観察指導員連絡協議会 名古屋自然観察会

本事業は、なごや生物多様性保全活動協議会の活動支援の助成を受ける予定です。

◆日 時 : 2019 年 11 月 30 日 (土・祝)

◆場 所 : 庄内緑地グリーンプラザ 2階 講習室 TEL052-503-1010

庄内緑地公園 (名古屋市西区山田町大字上小田井)
地下鉄鶴舞線「庄内緑地公園」下車、2 番出口すぐ南

◆研修会 受付 : 13 : 30~

14 : 00~15 : 30 (講演) 休憩 (15 分)

15 : 45~16 : 15 (意見交換会)

●講師 : 津田 智 岐阜大学流域圏科学研究センター准教授

●演題 : 「火と植物との不思議な関係」

●講師プロフィール

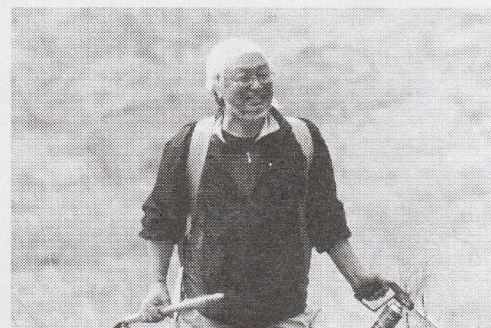
東北大学大学院博士課程修了 (理学博士), 日本学術振興会特別研究員, 岐阜大学農学部助手などを経て現職. おもな著書は, 飯泉茂編著「ファイアーエコロジー 火の生態学」(分担), 鷲谷いづみ編著「生態学 基礎から保全へ」(分担), 日本生態学会編「自然再生ハンドブック」(分担), 種生物学会編「発芽生物学 種子発芽の生理・生態・分子機構」(分担) など.

●講演要旨

自然科学の範疇で火と生物の関係について研究する分野があることをご存じでしょうか? 日本では自然発火の現象がほとんどないため, 火と言えば人との関わりが深いイメージがあります. そのため, 自然を中心にあつかう生態学の一分野に, 火と生物の関わりについての研究があることはあまり知られていません. 原因が人為的であったとしても, 火そのものは燃焼という自然の現象ですから, 自然の中にあっても火が付くという事態が発生すれば, 植物を含む野生の生物への影響を明らかにする研究が成り立つわけです. この分野の研究は Fire Ecology (火生態学) と呼ばれていますが, 日本では研究も少なく, 研究者もほとんどいないのが現状です. 海外の乾燥地では日本と異なり自然発火の火事が発生しているので, 研究も盛んで, E. V. Komarek は半世紀以上も前に自身の主宰する Tall Timbers Fire Ecology Conference の機関誌の中で Fire Ecology を「生態学的に意味のある火と, 自然との関わりについて研究すること」と定義づけています.

日本の火生態学的な研究の対象となり得るのは, 山火事のほか, 草原の火入れ (野焼き, 山焼き, ヨシ焼きなどとも呼ばれます), 焼畑などが考えられますが, 意図的に焼いたか, 意図せず焼けたかの違いはあっても, いずれも人為的に着けられた火によるものです.

日本における山火事の発生は, ばらつきが大きいものの毎年 1000-2000 件程度が発生し, 総計で 1000 ヘクタールあまりが焼失しています. 全国各地の事例をもとに, 山火事跡地に成立する植物群落の特徴についてお話しします. 火が付くと生物はすべて焼け死ぬとと思っている人が多いのですが, ほとんどの植物は焼死することなく生き残ります. その根拠を示すため, 草原の火入れや焼畑では, 実際の火入れ時の温度環境とその後成立する植物群落の特徴について解説します.



津田 智 氏



「新指導員歓迎会 & 協議会交流の日」ご案内

日 時：2019年11月4日（月、祝） 9:50～15:00

場 所：庄内緑地公園（名古屋市西区山田町）

集合場所：庄内緑地グリーンプラザ前(9:50)

●車で直接参加の方：有料駐車場に駐車（料金の例、8時間 900円）

●地下鉄利用の方：地下鉄鶴舞線「庄内緑地公園」下車、2番出口すぐ南

《プログラム》

○開会（9:50）

○ネイチュア・フィーリングによる自然観察（10:30～11:45）

指導：庄内緑地ネイチュア・フィーリング自然観察会

○昼食休憩（12:00～12:45）ピクニック広場にて

・温かい汁物を準備します。

・おにぎりなどの軽食とお碗などの器と箸は各自ご持参ください。

尚、雨天時には、昼食休憩場所を変更する場合があります。

○交流会（13:00～15:00）ピクニック広場にて

各支部の活動紹介（各支部であらかじめ報告者を決めておいてください）

標本作成、観察の七つ道具やお薦めする本などの紹介などを予定。

雨天時の場合、交流会は、西生涯学習センター（地下鉄「浄心」下車）を予定。

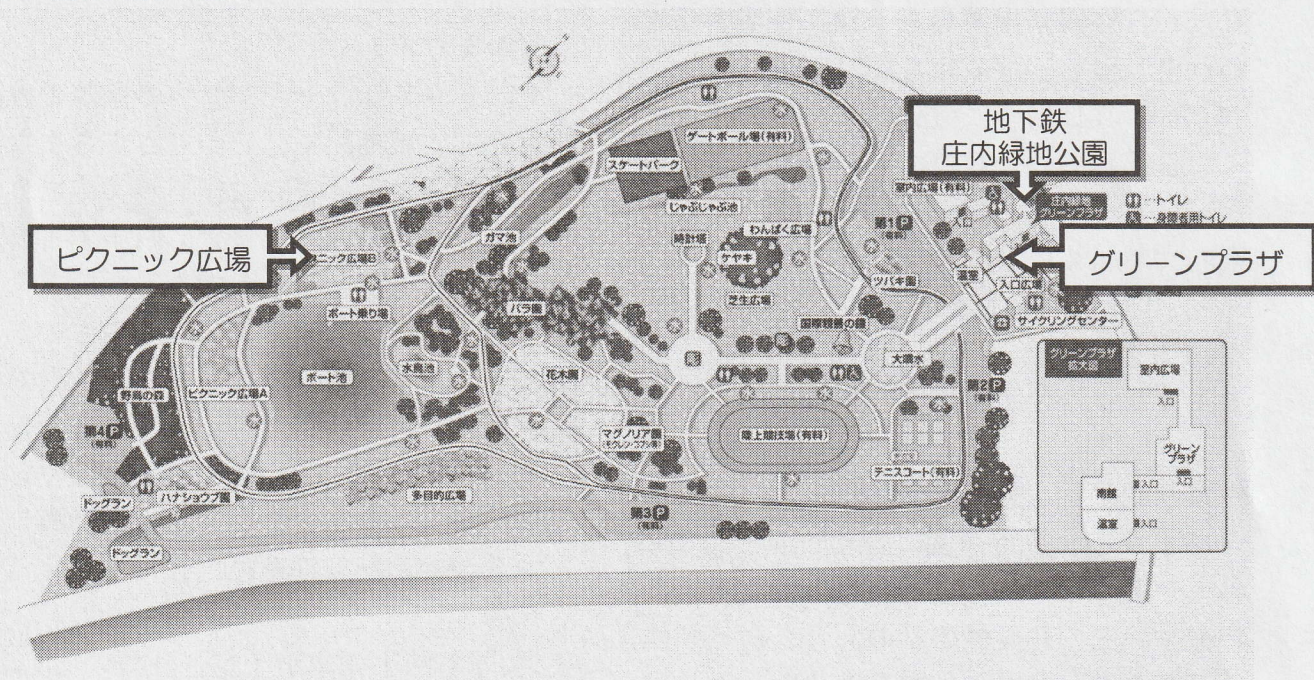
○申込み・問い合わせ先

10月25日（金）までに電話/FAX 又はEメールで申し込んで下さい

名古屋支部 滝田久憲 電話 052-782-2663（午後7時以降）/FAX 052-781-8127/

Eメール takilin@sf.starcat.ne.jp

《庄内緑地案内図》



メリケントキンソウ

～ 確認から除去作業 ～

確認と名古屋市への連絡

本年5月7日、笠寺公園（名古屋市南区）で鈴木指導員と私が、翌週の観察会に備え下見を行った時、マメカミツレに似た明るい緑色の植物が点在していることに気づいた。もしや、と思いながら頭状花にそっと触れる。「痛い!」、思わず手を引っ込めた。間違いなく、メリケントキンソウだ。南アメリカ原産で、種子に鋭いトゲを持つキク科の外来植物。名古屋市内でも複数の箇所で確認されているが、身近な場所で実際に繁茂を確認するのは初めてだった。

その日、公園を管理する名古屋市南土木事務所に連絡。内容は、次の三点である。

- 1) メリケントキンソウの特徴と危険性。
- 2) 除去作業の実施及び看板等での告知。
- 3) 市民参加での除去作業実施と多数の人へ外来植物を周知する機会の設定。

市民参加で除去作業を実施している施設の名をあげると、南土木事務所は「その公園は指定管理者制度が導入され、名古屋市と関わりなく独自で動けるからね」という。私たち自然観察指導員も一緒に作業するという申し出も、意に介さない様子だった。

しかし9日午後に電話があり、「作業をするなら都合のいい日は、いつか」と問われた。夕方、FAXで15日に除去作業する旨の案内文が届く。話は急速に進展していた。

翌10日、南土木事務所と打合せ。

13日の観察会終了後、参加者にメリケントキンソウの説明と作業の日時を伝えた。

作業と成果

15日午前、笠寺公園に行くとすでに多数の人の姿があった。メリケントキンソウの特徴や除去の必要性の話のあと、横一列に並んで前進しながら作業を進めた。これは

名古屋支部 近藤 記巳子



▲ メリケントキンソウ（名古屋市笠寺公園）

種子の拡散防止のためである。また、トゲによるケガの予防のためゴム引き手袋を着装し、根切り鎌で抜き取った。2時間後の成果は、約70 kg（45ℓ入りで8袋）になった。

参加は、私たち自然観察指導員2名と観察会参加者、笠寺公園愛護会会員、南なごや花マイスター倶楽部会員、なごや生物多様性センター、南区公害対策室、南・瑞穂・熱田・緑の各土木事務所、本庁緑地維持課の職員の計41名（このうち名古屋市職員24名）。参加のみなさんから、「メリケントキンソウのことは、何も知らなかった」「勉強になった」という声があった。

ふりかえり

今回、メリケントキンソウの繁茂の確認から非常に短期間で、しかもさまざまな立場の参加者によって除去作業が実施されたことに改めて驚く。ひとえに南土木事務所の迅速な対応によるものである。

組織はとかく前例主義に陥りやすいが、南土木事務所職員のみなさんの柔軟な対処は心強い。また、私たちが通報するのみにとどまらず、積極的に公園の安全性や自然保護に関わったことは、自然観察指導員としてささやかな役目を果たしたといえるだろう。

※ 来春も除去作業が予定されている。

「樹木博士」になろう！！

あいちの自然観察会報告

名古屋支部 滝田 久憲

名古屋支部では、今年度のあいちの自然観察会を、なごや環境大学連携講座「ふるさと親子自然観察会」と同時開催で、5月4日(土、祝)に鶴舞公園で実施しました。

今回の観察会は開催日が「みどりの日」という事で、都市公園の緑が果たす役割などを学ぶために、「樹木博士になろう！！」をテーマとして、実施しました。

実を言いますと、2009年にもこの鶴舞公園で同じテーマで自然観察会を実施していました。

ところで現在、名古屋市では都市化の進行に伴い、緑被率が減少し、都市におけるヒートアイランド現象が問題となっています。こうした中、各種の調査で、都市の緑が気温を下げる効果があることなどが分かっており、都市公園や東部丘陵地の緑が果たす役割が再評価されています。

また、樹木は空気を綺麗にしたり、そこに多くの生き物が集まったりすることで、私達に憩いの場や自然に触れ合う機会などを提供してくれています。

そこで、今回の観察会では、都市公園に植栽されている色々な樹木を観察しながら、その特徴や役割などを参加者に学んでもらい、身近な都市公園の大切さやその保全などについて考えてもらうことにしました。この日の参加者は一般3名、会員8名でした。

ところで、会場となった鶴舞公園には、自然と人々の生活文化との関わりを知ってもらうために全国で55箇所に設置されているグリーンアドベンチャーの常設コースの一つがあります。参加者はグリーンプラザの受付で、50種類の樹木のある場所のマップとその木の特徴や用途などを書いた

紙をもらい、それぞれのレベルに応じたグループの樹木の名前を調べながら園内を回るようになっています。

今回の自然観察会では、時間も限られ、対象が初心者ということで、4月29日の下見の段階でクスノキなどの身近なもの、スギ、ヒノキなどの私達の暮らしに関わっているもの、ヤマボウシなどのこの時期に花を咲かせているものなどの11種類の樹木を選び、コース順に番号をつけました。

当日は、参加者に11種類の樹木のミニ図鑑を配布し、それを参考にしながら、当会会員が樹木の特徴や用途などを説明し、約2時間かけて、全コースを回りました。

最後に、10種類の樹木の葉っぱの写真と樹木の特徴などを書いた質問用紙を参加者に配布し、樹木名を答えてもらいました。答え合わせをすると全員正解でした。

ゴールデンウィーク中で参加者は少なかったのですが、日頃は高い所に咲いて見えにくいトチノキの花を目の前で観察することができるなど、収穫の多い観察会でした。

季節を変えて、再度、チャレンジしたくなりました。



▲ 自然観察会の様子

“藤村も私たちと一緒に伊良湖を歩いたらよかった…!?”

『2019 年度 伊良湖岬生きもの調べ研修会』報告

東三河支部 星野 芳彦



○去る 2019 年 6 月 30 日(日)、「県協議会主催研修会『伊良湖岬生きもの調べ』が伊良湖岬周辺で 7 月 15 日(祝・海の日)の自然観察会の現地下見の会も兼ねて催され、当支部 21 名の参加がありました。時折強風が吹く荒れた天候ではありましたが、動植物から地質や地球の歴史、さらには地球規模の環境問題にも及ぶ中身の濃い内容の研修となりました。(下写真は、伊良湖灯台付近の磯)



○観察ルートは、観察会当日と同じく、道の駅クリスタルポルトからフェリー乗り場を横に見て波打ち際の堤防に沿って灯台方面へ進み、伊勢湾海上交通センター下の周回散策路へ出て、出発点へ戻る道順を取りました。磯から伊勢湾を挟んで、知多半島、神島、志摩半島までを一望できる伊良湖岬付近でのモデルコースともいえる観察コースです。

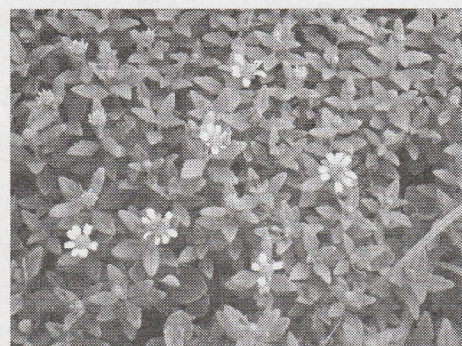
○伊良湖岬付近は、中央構造線の付加体によって構成された地質のため、日出の石門をつくるチャートをはじめ様々な石が見られます。中でも興味深いのが写真のような転石です。おそらくこれまでの大津波によって運ば



れたと考えられ、近いうちに発生が心配される南海トラフを震源とする巨大地震に意識が向かわずには居られません。

○この辺りは、海岸特有の植物が観察できます。ネノシタやワダレウの花がきれいでした。

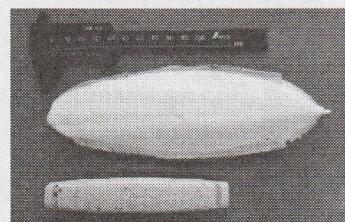
ネノシタ→



←ワダレウ

○岩に挟まれた砂地でコウイカの殻と中国語と思われる漢字が刻まれたプラスチック製の浮きらしきを拾いました。(下写真)

ここ伊良湖岬には、黒潮に乗って色々なものが流れ着きます。何かロマンのある話



ですが、世界的に PET ボトルやレジ袋などのプラスチック塵の海洋汚染問題が叫ばれています。折しも、7 月 15 日付朝日新聞「天声人語」は、藤村の詩「椰子の実」が取り上げられていました。彼の眼には、今の伊良湖がどのように映るのでしょうか。(東三河支部 星野)

稲武の自然観察会の報告

名古屋支部 西野 智子

2019（令和元）年6月6日、雨の日が続いていた天候が回復し、とても良い天気の中、有松中学校2年生の自然観察会に参加させて頂きました。私は昨年11月自然観察指導員講習会に参加して指導員になったばかりの新人です。

有松中学校2年生全員（350名）で19班に分かれて指導員一人に対して約10名から18名程連れ立って、順番に歩き出しました。2時間程度のハイキングの始まりです。皆さんに小鳥のさえずり、木々のゆらめき、森林の香りなど、自然のシャワーを浴びて頂きながら歩きます。

私がまず皆さんに伝えたかった事は、スギ・ヒノキの違い、この豊かな面ノ木原生林に生えている木の名前。それから一見何も問題はなさそうに見えるが、スギ・ヒノキの放置林。どのような事が起きてしまうのか。なぜブナの原生林が大切なのか。今年、60年とも100年とも言われている笹が枯れて、ブナ等の幼木たちはグングン生長していけるのか。巨木が倒れて空がぽっかり空いたところにどのように木が生長をしていくのか。などの質問を投げかけながら歩きました。



▲班の振り返り（面ノ木園地）

皆さんはスギ、ヒノキの違いの説明では、熱心にメモをとっている姿も見られました。ブナの話のところでは「ブナで有名なところは白神山地だよね」と明るい声がこちらに届いてきました。

自然に興味がある子もない子もこの自然観察会で、日常を離れて良い天気の日の良い空気を吸って仲の良い友達と楽しくハイキングをして、「爽快だな。自然は良いな」と何か感じとって頂けたら私の役割が少しでも果せたのではないかと思います。

次の世代の皆さんに変らない美しい自然を守り伝えて行きたいと、強く感じた自然観察会でした。



▲ブナの幼木

一度枯死したササ群落がもとに戻るには、十数年の歳月を要する。さらに。芽生えてから次に開花するまで何年かかるかはわかっていない。ただし、もしササの寿命がブナより長いとすると、ブナ林が更新できないことになる。だから、100数十年に一度、ササは一斉に開花するのではないかと推測をする。300年近く生きると言われているブナは、その一生の中で、二度くらい訪れるであろうササの一斉開花枯死を契機として、世代交代をしているのではないかと考える。なんと、ゆったりした時の流れであろうか。

石原則義

私の活動紹介

知多支部 榊原 靖

淡水エビを極めたい

川の観察会を行うと、多くの場合エビに出会います。テナガエビとかスジエビであればだいたい現場で見分けがつくので、観察記録を辿って分布情報とすることが可能（写真が添えられていればなおよい）だと思います。しかしヌマエビ類となると慣れていないと正確な同定には至らないと考えます。もちろん観察会ではそんな細かい種名にこだわる必要はないのですが、分布状況を知りたいとなるとそうはいきません。

知多半島の淡水エビの分布状況を知りたいとかねてから思っていました。そのきっかけとなったのは淡水生物学のバイブルともいうべき上野益三編修「川村日本淡水生物学」に記された「ヌマエビは本州以南の日本全土に分布し、ヌカエビは河和（知多半島）～村上（新潟県）の線以东および以北の本州に産する」という記載でした。そこで知多支部の代表になった機会に淡水エビを調査対象とすることを提案しました。といっても観察会でみつけたエビ類の情報を集める程度の活動ですし、私自身が予想外に観察会に参加できなくて、このエビ類調査も遅々として進展していないというのが現状です。

それでも南知多町で最近始まった観察会のお陰で、今までに見られなかった種（ヒラテテナガエビ、ミナミテナガエビ、ヒメヌマエビ、トゲナシヌマエビ）が加わり、知多の淡水エビ相は急に賑やかになりました。南知多町ではこれまで川の観察会がほとんど取り組まれてきませんでした。今後新たな発見が続くのでは、と期待しています。

知多半島の淡水エビ

Wikipediaによるとエビは、「節足動物門・甲殻亜門・軟甲綱・十脚目（エビ目）のうちカニ下目（短尾類）とヤドカリ下目（異尾類）以外の全ての種の総称である」とのことなので、現時点で私が把握している知多半島の淡水エビ類は以下のとおりです。

テナガエビ科

スジエビ属

スジエビ

テナガエビ属

テナガエビ、ヒラテテナガエビ

ミナミテナガエビ

ヌマエビ科

ヒメヌマエビ属

ミゾレヌマエビ、ヤマトヌマエビ

ヒメヌマエビ、トゲナシヌマエビ

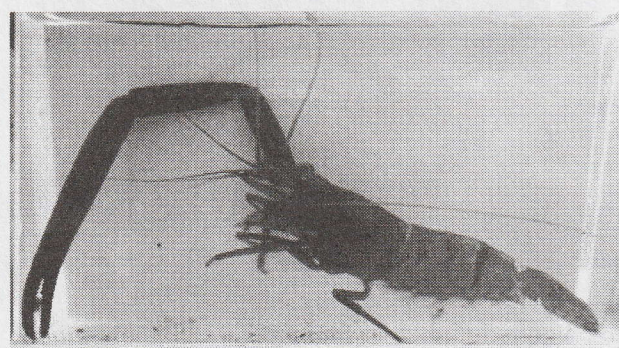
カワリヌマエビ属

ミナミヌマエビ

アメリカザリガニ科

アメリカザリガニ属

アメリカザリガニ



ヒラテテナガエビ

2018.7 南知多町

新指導員紹介

2018年三重県で指導員講習会を受けた方の中から、10名の方が県協議会に入会されました。前号に続いて、自己紹介です。

- ・尾張支部 後藤 眞矢：森林公園、山路の森、海上の森をフィールドに、観察会に参加しています。また、猿投山の麓で間伐作業を行なっています。
- ・尾張支部 後藤 裕巳：猿投の森づくりの会で山路の森、森林公園えびづる会で植物園、2か所における自然観察会でガイドをさせていただいています。知識と経験を深めていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。
- ・名古屋支部 塚本 英貴：野球と酒と虫が大好きな22歳児です。研究と鍛錬を忘れずに活動をしていきたいと思っています。これからのご指導・ご鞭撻よろしくお願いいたします。
- ・西三河支部 藤原 耕三：特に植物に関して、指導していただけると有り難く思います。趣味は、将棋（アマ五段）・楽器演奏・天体観測・キャンプ・歴史・他です。

2019年度 第2回理事会 報告

日 時：平成2019年5月6日（月・祝）13:30～ 場所：名古屋市音楽プラザ
出席者：堀田、浅井、三田、石原、長谷川、永田、新山、山田、松尾、滝田、榊原、星野、河江、

◆議案

2019年3月の総会・講演会の反省から、2020年3月20日（金・祝）総会の折の講演会は、会員のみで行う。

1 2019年度事業案について再度確認した。主な確認事項は以下の通り。

あいちの自然観察会 研修会(各支部)担当	各支部からの日時・テーマ・実施場所を再確認した。 (通常総会資料「第4号議案 2019年事業」に掲載)
協議会受託事業	有松中学校2年生9クラス350名 リーダー：指導員27名 日時：6月6日(木)9:30～場所：名古屋市稲武野外教育センター 丸の内中学校2年生1クラス36名 リーダー：指導員4名 日時：8月8日(木)9:30～場所：名古屋市稲武野外教育センター
自然観察指導員講習会 日本自然保護協会との共催 愛知県・名古屋市後援予定	日時：8月31日(土)9:00～9月1日(日)16:30 場所：美浜少年自然の家 定員：60名 スタッフ：11名 名古屋支部：4名 知多支部：4名 尾張支部・西三河支部・東三河支部各1名 スタッフに女性2名入れる スタッフ11名の旅費・宿泊費は、協議会負担
生物(植物)分類・生態研修会※	テーマ：火と植物との不思議な関係 講師：津田 智 氏 (岐阜大学准教授) 日時：11月30日(土)14:00～ 場 所：庄内緑地グリーンプラザ2階講習室
協議会交流の日 (担当：名古屋支部)	日時：11月4日(月・祝) 場所：名古屋市西区庄内緑地 内容：午前 自然観察(ネイチュア・フィーリング) 昼食休憩 汁ものを用意する 午後 標本作成について、観察の七つ道具、 お勧めする手ごろな図鑑
調査活動	調査データの共有化

※なごや生物多様性保全活動協議会の会員活動支援の助成を受けて実施予定
その他

- ・第3回理事会 8月12日(月・祝)13:30～、場所：名古屋市音楽プラザ

【行事案内】

区分	日 時	内 容	実施場所	集合場所	担 当
新指導員 対象自然 観察会	10/13(日) 10:00～12:00	虫のしわざとそ の犯人	大高緑地	ボート乗り 場前9:30～ 受付	協議会 事務局
協 議 会 交 流 の 日	11/4 (月・祝) 10:00～15:00	ネイチュア・フ ィーリングによ る自然観察	庄内緑地 公園	グリーンプ ラザ前 9:50	名古屋支部・ 滝田
		交流会 新指導員歓迎会 各支部の活動紹 介 標本作成、観察 の七つ道具、お 勧めする本など の紹介	庄内緑地 ピクニック 広場	雨の場合は 浄心にある 西区生涯学 習センター の視聴覚室 を借りる予 定	
生物分類・ 生態研修 会	11/30(土) 14:00～	テーマ：火と植 物との不思議な 関係 講師：岐阜 大学 津田 智 氏	庄内緑地グリーンプラザ 2階講習室		協議会 事務局

【編集部から】

編集スタッフ募集中！編集スタッフが不足しています。マイクロソフトのワードが出来ればOKです。詳細は編集部までお問い合わせください。

<編集後記>

・指導員講習会が「美浜少年自然の家」であります。県協議会からは、スタッフ 11 名が参加します。
・「みんなで調べよう！あいちの生物多様性 モニタリングハンドブック」の件です。滝崎さんをはじめ何人かの協議会会員が協力して完成したハンドブックとのこと。滝崎さんは、「協議会会員全員に届けたい」とメーリングリストに書き込んでいます。各支部にハンドブックをお届けしています。必要な方は、各支部に問い合わせください。この調査で愛知県とのつながりを途切れないようにしていきたいと思います。ご協力ください。(石原)

編集スタッフ	石原則義 岡田雅子 馬場隆之 平山希能
協議会ニュース編集部	石原則義 事務局に同じ

愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会）事務局 石原則義
〒464-0096 名古屋市千種区下方町 7-3 TEL/FAX : 052-711-3087
E-mail : norimameobata@yahoo.co.jp Web Page : <http://naichi.net>
郵便振替口座 : 00820-9-6546 (名義 : 愛知県自然観察指導員連絡協議会)